

みんなにやさしいまちづくり

小学3年生対象

目標

自分たちの住んでいるまちを「みんなにやさしいまち」の視点で見つめ、気づいたことからまちの課題を発見し、多様な学習活動を通して解決方法を考え、児童自らが地域の一員として、自分にできることを実践しようとする態度を育む。市民誰もが尊重され、人間性豊かなくらしができる「みんなにやさしいまち」を考える中で、地域への愛着をもって活動している人々がいることを知り、それらの人々に感謝の気持ちを持つ。

プログラム概要

- ① やさしいまちとはどんなまちかを話し合い、ノーマライゼーションの考えを学ぶ。
- ② 校区探検を通して「やさしい」の視点でのまちの課題を把握し、課題解決のための調査計画をたてる。
- ③ テーマごとにグループに分かれて調べ学習を進める。
- ④ 自分にできることをやってみる。
- ⑤ 実践したことを友だちや地域の人に発表し伝え合う中で、やさしいまちについて自分なりの考えを深める。

* 車いす体験などのキャップハンディ体験を盛り込んだ展開もできる。

授業時間数

26時間

外部講師 教育資源の活用

- ・地域住民の方々
- ・市・区役所や、まちにある警察署や消防署、公共施設(図書館、福祉施設、公園、等)に関連する人々

主な教科等 関連教科等

主となる教科等:総合的な学習の時間
関連教科等:社会科、国語科、道徳

他の分野への応用

「やさしい」をほかのキーワードにして応用することも可能。

「子ども堺学」 ポータルサイトの活用

[トップ](#) → [教員ページ](#)

<http://sd.sakai.ed.jp/>

※交通安全・防犯・防災などについては4年で扱うものとする。

※中期プログラム「地域探検をしよう」と一体で扱うこともできる。

学習の流れ

① やさしいまちって何だろう？

- 「やさしい」という言葉から連想することがらや経験、気持ちなどを発表し合う。
- 「やさしいまち」とはどんなまちなのか、それは「誰」にとってやさしいまちなのか、を考え発表し合う。
- 誰もが何かの場面で弱者であることに気づき、誰もがスムーズに社会参加できるような環境づくりが大切であることを知る。
- 「みんなにやさしいまちを考える」という学習課題を全員で確認する。

② わたしたちのまちの「やさしい」や「困った」を探そう

- 地域(校区)探検に出かけ、まちやそこに住む人々の「やさしいポイント」を探し、地図上にメモをとる。また、「困ったなポイント」をみつけたら同様に記録する。
- 地域探検でみつけた「やさしいポイント」「困ったなポイント」を発表し合い、KJ法などで課題を整理する。(誰にとって、どんなことが、やさしいまち・困ったまちになっているのかを把握する。)
※校内で車いす体験をした後、安全面の確保が可能であれば、車いすで校区に出て、検証することもできる。

③ 『もっと』やさしいまちにするための方法を調べよう

- 『困ったな』を解決しようという学習課題をたて、それぞれのテーマごとにグループに分かれ、調べ学習の計画をたてる。
- グループに分かれて、まちの「困ったな」を解決するためにどうしたらよいかについて、多様な方法で調べる。
(例)●まちの「やさしさ」を実践している人(公園の掃除、登下校見守りなど)にインタビューをし、記録(メモ)をとる。
●まちの居住者にインタビューやアンケート調査をし、意見を記録する。●まちに関わる公共の仕事をしている人(市・区役所、警察・消防署等)にインタビューする。●まちの写真・映像をとる。●堺市のまちづくり計画を調べる。●外国や他の地域の「やさしいまち」事例を本やインターネット等で調べる。
- 調べたことを課題別グループでまとめ、整理・分析をする。

④ 『もっと』やさしいまちにするために自分にできることをやってみよう

- 自分にできることを考え、実践する。
- グループや学級・学年でやってみたいことを実践する。
- 実践してみて、どうだったか振り返る。

⑤ 実践したことをまとめて、報告会を開こう

- 実践してきたことをグループでまとめる。
- 学年児童のほか、地域住民の方も招き「わたしたち・もっとやさしいまちにするさかい」実践報告会を開く。
- グループごとに発表し、質疑応答をする。報告を聞いて気付いたことを各自でまとめる。
- 調査に協力して下さった地域の方々に、感想やご意見を述べてもらう。
- 授業全体のまとめとして、「もっとやさしいまち」にするための提案、学習活動を通して気付いたことや考えたいこと、これから実践したいことなどを自分の意見として書いてまとめる。